

記者発表（資料配付）				
月／日 （曜日）	担当部課 担 当 名	TEL	発表者 （担当班長名）	その他配布先
6／1 （木）	感染症対策課 （感染症班）	（内線）3 2 8 6 （直通）078-362-3213	感染症対策課長 舟川 直輝 （小林 博之）	———

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の患者発生について

【概要】

県内での感染が疑われる重症熱性血小板減少症候群（以下、「SFTS」という。）の患者1名が5月31日に確認されました。

SFTSは、主にSFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染します。マダニは春から秋にかけて活動期であることから、草むらや藪などマダニが多く生息する場所に入る場合には、マダニに咬まれないよう長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用して肌の露出を少なくするなど、感染予防対策をお願いします。

なお、SFTSは、人から人への感染はほとんどありません。

1 確認された患者の概要

- (1) 患 者 20歳代、男性、加東健康福祉事務所管内
- (2) 発病年月日 令和5年5月26日
初診年月日 令和5年5月26日
診断年月日 令和5年5月31日
- (3) 主な症状 発熱、全身倦怠感、血小板減少など
- (4) 現在の状況 入院中
- (5) 感染経路 調査中
- (6) そ の 他
5月26日 発熱等認め、医療機関Aを受診
5月29日 医療機関Bで採血し、血小板減少認め、医療機関Cへ入院となる
5月31日 PCR検査の実施、「陽性」判明し届出

2 県の対応

- (1) 県民への情報提供と注意喚起
 - ① 県医師会等関係機関へ情報の提供及び疑い患者の情報提供を依頼
 - ② 関係市町へ情報提供を行うとともに、関係機関等への注意喚起を依頼
 - ③ 県ホームページによる注意喚起
- (2) 疑い患者に対する検査の実施

【 注意喚起について 】

県民のみなさまへ

例年、夏から秋にかけてSFTS等のダニ媒介感染症の発生数が増加しますので、野外活動時にダニに咬まれないための予防対策を行いましょう。

（裏面へ続く）

(1) マダニに咬まれないようにすることが重要

- ・ 草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用して肌の露出を少なくしましょう。また、虫除け剤を使用しましょう。
- ・ 屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないかを確認しましょう。特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部などがポイントです。

(2) マダニに咬まれたときは、無理に引き抜こうとせず、皮膚科などの医療機関で処置(マダニの除去、洗浄など)をしてもらいましょう。

また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は、すぐに医療機関を受診し、マダニに咬まれたことを伝えましょう。

<参考>

[SFTSについて]

(1) 病原体及び症状等

ブニヤウイルス科フレボウイルス属のSFTSウイルスによる感染症で、主にSFTSウイルスを保有するマダニ※に刺咬されることで感染する。

症状は発熱、消化器症状(嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血)を主徴とし、時に、頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴う、血液所見では、血小板減少、白血球減少、血清酵素の上昇が認められる。致死率は10~30%程度である。

※ マダニは、国内に広く分布し、草むらや藪に多く生息しています。食品や衣類などに発生するダニとは全く種類が異なります。

(2) SFTS発生状況(令和5年6月1日現在)

(人)

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30
兵庫県	2	—	—	—	1	—
全国	48	61	60	60	90	77

区分	R1	R2	R3	R4	R5
兵庫県	1	—	2<1>	2	3
全国	101	78	110	118	56※

他県への届出は、<>内書きした。

※：令和5年5月31日現在の国速報値に本事例を加えている

- ・ 国内では平成25年1月に初めてSFTS患者が確認された。
- ・ 兵庫県内では、平成25年7月に豊岡健康福祉事務所管内で2名患者、平成29年7月に赤穂健康福祉事務所管内で1名患者、令和元年7月に赤穂健康福祉事務所管内で1名患者、令和3年6月と8月に豊岡健康福祉事務所管内で各1名患者、令和4年6月に赤穂健康福祉事務所管内で2名患者、令和5年に入り赤穂健康福祉事務所管内と神戸市の各1名患者で、今回が11例目となる。